

おぢか 議会だより

第138号 令和8年4月27日

注目!

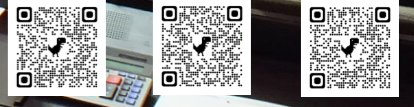
議場が二分!

旧小西家住宅保存工事可決 … 6

写真は7年ぶりの開催となった「おぢか国際音楽祭」教会コンサートの一幕

定例三月会議ッ!

令和8年3月9日～17日まで



第1日目 第2日目 最終日

小値賀の未来を左右する予算審議 修正案が提出され議論は白熱

3月9日から17日まで、定例3月会議が開会されました。新年度予算を決める重要な会議です。

3月11日から13日までの3日間、予算特別委員会（議長を除く議員7名で構成/今田光弘委員長）を設置。総額40億700万円となる令和8年度一般会計予算をはじめ、各特別会計・公営企業会計について、執行部と熱く深く突っ込んだ質疑を交わしました。

最大の争点は 旧小西家住宅関連予算

令和8年度一般会計予算の審議において、最も議論が集中したのが「旧小西家住宅（笛吹地区）」の保存修理事業です。
総事業費が3カ年で約3億円に上る本事業に対し、委員から「本体工事費相当分（令和8年度分…9550万円）を減額する修正案」が提出され、賛否が大きく分かれる議論が行われました。（詳細は8、9ページ）

農業委員会 推進委員の体制を 2名にスリム化

● 高齢化により農業者が減少しているとのことだが、具体的にどのくらい数が減っているのか。
また、農業推進委員を4名から2名に減らすことで、毎年行っている農地の現況調査など、ひとり当たりのカバー範囲や負担が増加するのではないかと。
● 過去の正確な推移データはないが、令和3年度の調査時点で農地面積は約440ヘクタール、農業者数は約320名となっており、この実態を鑑みて定数削減を行うものである。

令和7年度各会計 補正予算を可決

令和7年度 特別会計 補正予算

令和7年度 一般会計 補正予算

一般会計補正予算

歳入では、国の特別交付税の決定による増額（1億4800万円増）や、それに伴う財政調整基金への繰り戻し（貯金の取り崩しの減額）が主な要因です。

歳出では、旧野首教会保存修理事業の完了に伴う減額のほか、各事業の年度末に向けた実績見込みによる精算減額が行われました。また、年度内完了が困難な戸籍情報システム改修など8事業については、令和8年度へ予算を繰り越す手続きがとられました。

主なやりとり

● 固定住支援業務委託料が1億700万円増額されている理由と、実際の移住成果は出ているのか。
● 移住に関する相談対応が、当初見込みの15件から40件へと大幅に増加したため。オンライン相談や空き家バンクの内見対応が増えており、件数に応じて精算している。
令和7年度の移住者数は12月現在

特別・公営企業会計 補正予算

● 堆肥製造施設の3トンダンプ購入費（約1千万円）を減額（取りやめ）した理由は。
● 事務処理の遅れにより、当初見込んでいた納期に合わないことが判明したため。令和8年度中に事業全体の計画を見直す予定であり、それに合わせて改めて購入の必要性を検討する。

特別・公営企業会計 補正予算

以下の7会計についても、年度末の事業精算等に伴う補正予算案が可決されました。

- 渡船事業特別会計
新船リプレース調査業務委託料の減額など
- 国民健康保険事業特別会計
実績見込みによる保険給付費の増額など
- 後期高齢者医療・介護保険・国保診療所・簡易水道・下水道
各事業の実績見込みに伴う精算・減額補正など

2億714万円 減

43億2568万円 に

主な内容

- 町内公衆トイレ整備工事費 340万円 減
- 堆肥製造施設3tダンプ購入費 1000万円 減
- 松材線虫病被害木処理業務委託料 1060万円 減

渡船事業

181万円 減 8277万円に

国民健康保険

1273万円 増 4億6551万円に

後期高齢者医療

203万円 減 6065万円に

介護保険

1250万円 減 3億7549万円に

診療所

207万円 減 4億4535万円に

小値賀の未来を創る！ 40億700万円の予算を徹底審議！！

約15時間にわたる質疑の一部をお伝えします

令和8年度 予算審査ハイライト

令和8年3月11日から13日まで



橋本委員 横山委員 立石副委員長 予算特別委員長 今田委員長 江川委員 小辻委員 森岡委員

産業・観光

可決前の募集に 厳しい指摘

● 閣下予算案が議会で可決される前にもかかわらず、すでに大手旅行会社のツアーパンフレット等に「グリーンスローモビリティに乗りして野崎島を回る」と写真付きで掲載され、募集が始まっている。

● 予算成立を前提としており議会軽視だ。自前でリースできるなら、そもそも町の購入予算は不要では。

● 答IT協会側が事業開始を急ぎ、予算成立までの「つなぎ」としてリースで受付を始めてしまった。

● ただ、リースは月額約18万円と割高で最終的に購入費を上回るため、町による購入を協会は希望している。議会承認前に募集した手順の前後は重く受け止め、協会を指導する。

● 観光振興計画における「満足度」や「リピート率」の目標値(KPI)の根拠が曖昧ではないか。

● 答 これまでは広域調査のデータに頼っていたが、今後は宿泊・飲食・交通事業者と連携し、町独自のデータ収集体制を構築する。

● 満足度が低い要因を詳細に分析し、実態に即した施策と数値目標の改善を図る。

教育

子育て世代から 選ばれる島へ

● 閣下令和8年度の「ふるさと留学生(中高一貫)」の受け入れ状況と、募集活動の成果は。

● 答 令和8年度は中・高合わせて計10名の留学生を予定している。首都圏や福岡での説明会に加え、高校生自身がSNS等で小値賀の魅力を発信する「高校生プロジェクト」の予算を計上し、生の声を通じた募集活動を強化している。

● 閣下新設されたちかまる寮(男子寮)の運用と、女子寮とのバランスは。

● 答 旧セミナーハウスを改修した新寮(定員6名)が完成したことにより既存の寮を女子専用(定員12名)とし、合計18名の受け入れ体制を整えた。生活環境の充実、保護者の安心感や留学の満足度向上に直結すると考えている。

● 閣下青少年教育活動事業とは。

● 答 夏休みで帰省している本町出身の大学生をアルバイトとして雇用し、小学生の夏休みの宿題を見てもらう実証的な取り組みを予定している。

● 観光の開散期対策や、延泊を促す具体的な仕掛けは。

● 答 農業・漁業体験を組み込んだワークショップを実施し、ミニトマト狩りやかんころもち作りなどの体験プログラムを商品化する。

● 五島列島全体での周遊ツアー造成を通じ、小値賀での宿泊数増加を目指す。

福祉・子育て

こども家庭 センター設置へ

● 閣下こども家庭センターを新たに設置する狙いは？

● 答 これまで「母子保健(健康面)」と「児童福祉(生活・相談面)」で分かれていた窓口を統合し、妊娠期から出産、子育てまでを一括して伴走支援する体制を整える。

● 閣下島の介護施設等での人手不足が深刻だ。人材確保の具体策は。

● 答 非常に厳しい状況であると認識している。町外の就労支援事業者と連携したマッチングや、会計年度任用職員の募集、さらには自立支援相談を通じた就労支援など、あらゆる窓口を通じて担い手の確保に奔走している。

暮らし

建設なるか 民間賃貸住宅

● 閣下島の住宅不足が深刻で、移住や定住の妨げになっている。

● 答 住宅不足解消のため、新たに「民間賃貸住宅建設補助」を創設した。民間事業者による賃貸アパート等の建設(目標8戸)に対し強力に補助を行い、移住者と町民双方が入居できる住宅確保を急ぐ。

● 閣下方楽市は継続していきけるのか。

● 答 商工会に委託しているが、人材確保の面で継続が難しく、引き受けてくれる事業者もなかなか見つからない。今後、どのように継続していくか今年度中に考える。

行政

町民と共に 考える

● 閣下老朽化した公共施設全体を今後どう管理していくのか。

● 答 令和8年度に「公共施設等総合管理計画」を更新する。その過程で「町民ワークショップ」を開催し、施設の必要性や存続・廃止の方向性について、町民の皆様と直接議論し、優先順位(老朽度、緊急度、利用頻度など)を決定していく。

旧小西家住宅保存修理事業 議論の末、実施が決定

「小値賀の近代を象徴する遺産を現代へ」
その価値と活用計画、議場を二分した議論

今国会の一般会計予算審査において最大の論点となった「旧小西家住宅保存修理事業」。総事業費約3億円に及ぶ3カ年計画の予算について、予算特別委員会および本会議での討論と採決を経て、原案どおり可決されました。

本稿では、町から示された資料および議場での討論の概要、審議の結果をお伝えします。



正門前での家族写真

小西家と旧小西邸の歴史

町教育委員会の資料によると、小西家は江戸時代に和歌山県より笛吹に移り住み、当主は代々「常蔵」の名を踏襲してきました。8代目常蔵は「小値賀の近代発展の父」とされ、明治40年に郵便局長となり現在の小値賀郵便局の基礎を築きました。明治43年には小値賀魚市場を、大正8年には小値賀発電所を設立するなど、島民の生活向上や産業発展に貢献しました。旧小西家住宅は、昭和6年に笛吹の高台に常蔵が建てた大規模な屋敷造りで、約100年前の最先端の近代建築技術をつぎ込んだ豪華な造りとなっています。

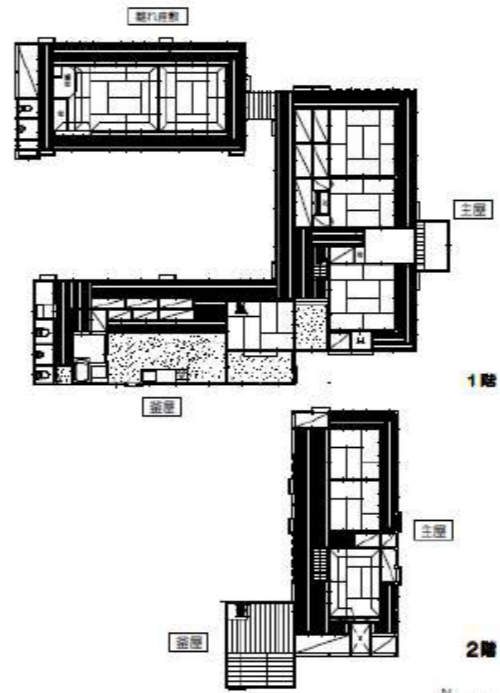
町が検討している 利活用(案)

- 保存修理後の建物について、町は4つの活用の方向性を示しています。
- 1 若者のチャレンジの場
コワーキングスペースや事務所、カフェ等としての活用。
 - 2 ふるさと伝承の館
伝統料理の提供、公民館的利活用の場、生涯学習活用等。
 - 3 建造物の公開
近代建築技術をつぎ込んだ屋敷造りをそのまま公開。
 - 4 町歩き等の拠点
歴史民俗資料館から旧小西家住宅などを巡る「笛吹町歩きコース」の終点、お

よび「小値賀島サイクリングコース」の始点としての位置づけ。

総事業費3億円のうち 町負担は2千万円

本事業に係る総事業費およびその内訳は、右に示すとおり。3カ年にわけて約



昭和6年建設当時の造りに復旧する

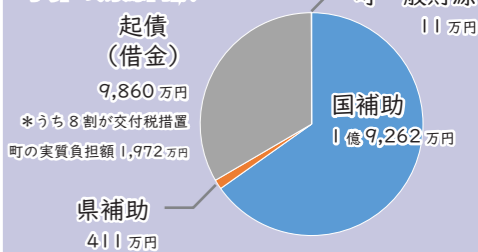
総事業費

約3億円
※設計費725万円を除く

工期

令和8年度から3カ年

予算の財源内訳



1億円つつ執行する計画です。

国(文化庁)から文化財保存のための補助をいただくため、工事内容は基本的に原状復旧となります。

過去の特集記事はこちらから



予算可決までの流れ

- 令和8年 1月13日 総務委員会にて教育委員会より説明
- 令和8年 2月9日 全員協議会にて教育委員会より説明
- 令和8年 2月19日 町長・教委より説明
- 令和8年 2月20日 設計業務(建物・外構工事分)完了
- 令和8年 2月24日 令和8年度予算案配布
- 令和8年 3月12日 予算特別委員会にて修正案提出
- 令和8年 3月17日 本会議にて修正案提出
- 令和8年 3月17日 修正案に反対多数で修正案可決
- 令和8年 3月17日 修正案に反対多数で修正案可決
- 令和8年 3月17日 修正案に反対多数で修正案可決

全員協議会では 厳しい質疑が

2月に開催された2回全員協議会では計画案(右ページに掲載)が示され、議員から事業の妥当性や将来への懸念について、多くの鋭い質疑が交わされました。

主な質疑の内容

- 3億円をかけて修理した後、毎年の維持管理費はどれくらいかかるのか。また、その費用をどうやって回収する計画なのか。
- 近隣の類似施設(尼忠東店や野崎島神官屋敷)の実績を参考にすると、光熱水費や管理人謝礼、清掃代などを含めて年間約90万円程度のランニングコストを見込んでいる。これを補う収益化の仕組みとして、歴史民俗資料館(100円)より高めの入館料設定や、人件費を削減

するための券売機の導入が考えられる。

● 元々は建物を解体して更地にするために町が寄付を受けたはずだ。国の補助金があるから町の手出しは2千万円で済むという理由だけでは、町民は納得しないのでは。

● 国の調査官から保存価値が極めて高いと評価を受けており、仮に町単独で必要最小限の屋根や壁の補修を行うだけでも数千円町の町費がかかってしまう。

● また、国から推奨された文化財保存事業を拒否した場合、将来的に文化財の修復など、他の文化庁関係の補助金採択に不利に働く可能性があるため、慎重な対応が必要である。

● 建物周辺はカーブで見通しが悪く、通学路にもなっている。

● 来館者が増えた際の歩行者の安全確保はどうするか。ガードレール等の設置はできないのか。

● 玄関位置は昭和初期の意匠で復元するため、石垣の切り下げ等は文化財保護の観点から望ましくない。

● また、ガードレールの設置は、道幅が狭く逆に車との接触リスクを高める懸念があるため慎重に判断する必要がある。

● 代替策として、飛び出しの注意喚起看板や速度抑制の誘導など、安全な動線計画をセットで検討する。

● 文化庁は文化財を残すことが仕事のため、保存の価値があるものがあれば残すように働きかけることは当然なこと。あとは本町がこれを欲しているかどうか。

● 私(町長)は専門家ではないのでその価値はわからないが、文化庁の調査官が価値を認め予算をつけてくれる。他市町でも同様に予算をつけてくれるかという、そうではない。

● 町は老朽化した公共施設を減らしていく方針であるはず。旧小西家住宅を整備すれば

ば公共施設が「プラス1」になるが、全体の見直しはどうなっているのか。

● ご指摘のとおり、施設が一つ増えることになる。そのため、本事業の推進と並行して、町全体の公共施設の将来方針(縮減や統廃合のロードマップ)を示す必要があると認識している。

● 令和8年度に町民ワークショップを開催し、人命や福祉に関わる施設などの優先順位を基準に、縮小・廃止対象の合意形成を図っていく計画だ。

利活用計画の見直しを

以上のような事前の執行部からの説明と質疑を経て、3月の予算委員会および本会議では修正案が提出されました。その概要を次項にてお伝えします。

最終的には本事業は可決されましたが、多額の税金を投じる以上、明確な利活用(収益化)計画と、公共施設統廃合方針が必要であると、強く要望しました。

こうします！

令和8年度の小値賀町

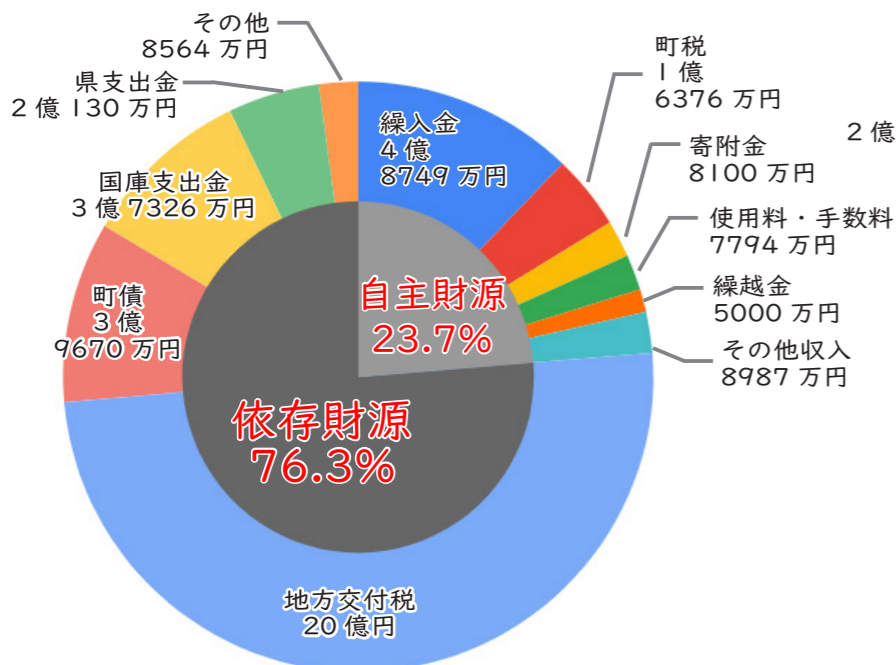
一般会計

予算総額 **40億700万円** 一般会計歳入・歳出ともに

町民1人当たり **195万円**

(令和8年3月1日現在の人口で算出)
(前年度当初予算から1万円増)

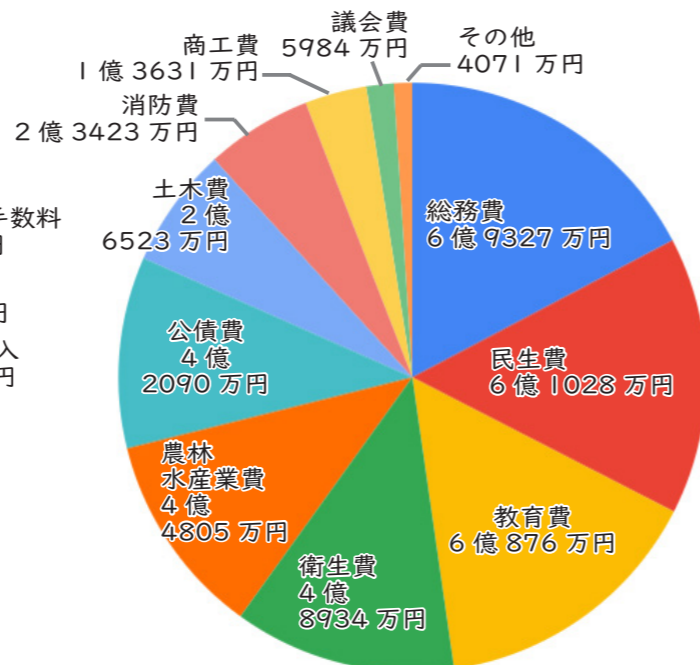
歳入



依存財源：国や県から定められた額を交付・割り当てられるお金や金融機関から借りてくるお金

自主財源：町が直接集めるお金
(この比率が高いほど自主的な財政運営ができる)

歳出



(端数処理により内訳と合計が一致しない)

公営企業会計

簡易水道

収入 **1億2496万円**

支出 **1億4472万円**

下水道

収入 **3億2649万円**

支出 **3億7515万円**

特別会計

渡船事業

7300万円

後期高齢者医療

6260万円

国民健康保険

4億3930万円

診療所

4億6120万円

介護保険

3億6300万円

2回にわたり修正案提出！

(前頁より続き)

予算特別委員会および本会議において、「旧小西家住宅保存修理工事の本体工事費(令和8年度分..9550万円)を削除する」修正案が、森岡議員より提出されました。

討論の後、採決が行われ、修正案は賛成少数で否決、原案が可決されました。これにより、旧小西家住宅は令和8年度から3カ年計画で保存修理工事が実施されることとなりました。

修正案の要旨

- ① 以下の理由により、現時点では町民の理解を得られず、残す価値を見出せないため、本事業費全額を減額する修正案を提出する。
- ② 当該建物はかつて取り壊しが予定されており、執行部自ら価値を認めていなかった経緯がある。なぜ今、多額の税金を投じて保存するのか、町民が納得できる説明がなされていない。
- ③ 観光資源としての経済効果

果や、具体的な利活用方法についての明確な答弁がない。他の類似施設で代替可能な内容で、多額の予算を投じる説得力に欠ける。

④ 公共施設の優先順位が最も低いCランクであるにも関わらず、新たに施設を増やすことは、人口減少社会において将来世代への重い負担となりかねない。

⑤ 島民の心の拠り所である「旧野首教会」などと比較しても、本事業に3億円超(国・県支出金を含む)を投じる妥当性や、町民の理解が得られる価値を見出すことは困難である。



修正案を説明する森岡議員

町民の理解は得られない！

修正案に賛成 (3名)



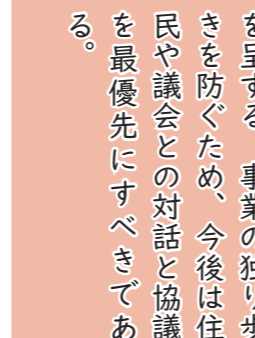
江川 議員

巨額の予算に対し利活用案が弱く、納得を得られない。国費頼みで急ぐのではなく一度立ち止まり、教育委員会移設など覚悟ある目的変更を行い、真の活用策を再考すべきだと考え賛成する。



今田 議員

利用計画が不透明で将来の維持管理負担が懸念される。公共施設統廃合の議論とも矛盾しており、何より巨額事業を進める執行部に熱意と一体感が欠如しているため、予算削除の修正案を支持する。



横山 議員

マイナスシーリングによる予算編成の努力を評価し賛成する。しかし、住民への説明や情報開示不足には苦言を呈する。事業の独り歩きを防ぐため、今後は住民や議会との対話と協議を最優先にすべきである。

修正案に反対 (4名)



小辻 議員

保存事業は実質負担が少なく、財政的に有利な条件だ。重要な文化的景観としての歴史的意義は重く、東京藝大など外部視点を取り入れた利活用によって、町の活性化を目指すべきと考える。



立石 議員

重要文化的景観の保存は町の責務である。工事に着手しつつ、3カ年の事業期間中に「教育委員会移転」や官民連携の拠点化など、合理的で魅力的な利活用策を再構築すべきと考える。



橋本 議員

厳しい予算編成の努力や補助金活用の意義を評価し賛成する。ただし現状の入館料に依存したモデルは将来財政を圧迫する懸念があり、持続可能な攻めの収益化戦略へ転換することを強く要望する。

産業建設常任委員会 委員会報告！



今回の視察は、アートを活用した地域振興の取組について調査し、人口減少・過疎化が進む小値賀町における今後の地域振興施策の検討に資することを目的として実施しました。

直島町の取組の本質は、アートそのものを目的とするのではなく、島の存続と島民の暮らしの維持を目的とした「手段」としてアートを活用している点にあると感じました。

観光振興は結果であり、島民の生活や雇用、誇りを最優先に据えていることが、長期的に持続可能な取組につながっていると考えます。

次に、行政と民間の役割分担についてです。

直島町では、行政と民間の役割が明確に整理されており、行政は、土地利用・景観・生活環境の管理・住民合意形成を担い、民間は、投資・企画・運営・情報発信を担うという形が確立されています。

行政がすべてを担わない判断を行ったことが、結果として事業の継続性と安定性につながっている点は、小値賀町にとっても大きな示唆であると感じました。

**香川県香川郡直島町に
視察に行ってきました！**



直島町役場にて

また、島民合意形成と雇用の確保についても重要なポイントです。

直島町では、取組の初期段階において、観光化や外部資本の導入に対する反対意見も多く存在していたとのことですが、

しかし、島民の雇用が創出され、地元事業者への経済的な波及が実感されるようになるにつれ、徐々に理解と協力が得られてきたという説明を受けました。

外部からの来訪者を単なる観光客としてではなく、「島の担い手」として受け入れる仕組みが構築されている点も、印象に残りました。

**小値賀町の実情に即した
取り組みを！**

直島町の取組は、そのまま小値賀町に導入できるモデルではありません。

直島町は「外から人を呼ぶ島」としての成功事例である一方で、小値賀町は「島に入り、共に暮らし、働く人を増やす島」を目指す必要があると考えます。

小値賀町の強みである農業・漁業などの一次産業や生活文化を軸に、教育や体験型交流と組み合わせる形で関係人口を創出していくことが、現実的かつ持続可能な方向性であると感じました。

本視察で得られた知見を踏まえ、小値賀町の実情に即した地域振興施策の検討を、今後も進めていきたいと考えております。

(橋本委員長)

総務文教厚生常任委員会 委員会報告！



**「移住」「教育」「福祉」を
重要課題にしています！**

当委員会は月に1〜2回のペースで開いており、昨年5月以降これまで13回の委員会を開催しました。

5月22日に現体制で初めて開催した委員会では、本町の最も早期に解決すべき課題について話し合い、積極的かつ早期に解決すべき最優先課題として『移住』『教育』『福祉』の3つが挙げられました。

まず『移住』では、交流人口増、また更なる住居の確保により、多くの移住者の獲得を目指し、生産年齢人口増、こども人口増、また不足する人材確保に繋げたいと考えております。

『教育』では、北松西高校の存続問題解決に向けて全力を尽くします。幼児教育から見直し、小中高でなく、幼小中高を一体化した教育観を作り上げ、移住者や留学生に安心して来て貰えるような教育、教育環境の提供を目指したいと考えています。

学力の向上だけでなく、不登校や様々な特性を持った子供にも光を当て、どうしても範囲は限られますがインクルーシブ教育の可能性を探求します。

『福祉』では、人材不足により、崩壊が始まりつつある介護現場の現状打



委員会では活発に質疑が行われている

破に向け、地域と福祉の連携、福祉事業者の連携を図り、喫緊の課題である人材の確保に向けた提案に尽力します。

以上の3つを、当委員会の最優先課題と位置付け、所管の課題解決に各委員全力で取り組むつもりでおります。

また、普段からの町民との対話は元より、出前議会、ギカイの窓、議会モニターとの意見交換会等で寄せられた町民の意見に真摯に耳を傾け、町民の福祉の増進、幸福の追求に尽力したいと考えています。

**島根県隠岐郡海士町に
視察に行ってきました！**

昨年10月14〜17日に島根県隠岐郡海士町に視察に行きました(詳細は議会だより137号12、13ページをご覧ください)。

20代の若者に限定した移住制度は、年間200人が移住し、うち10%ほどが島に残り島を支える人材になります。

また一歩も二歩も先を進んだSNSの発信力は、移住者、観光客のみならず、不足する人材の確保にも波及している点も大変な驚きでした。

隠岐島前高校は離島留学制度に大変力を入れており、視察時の全校生徒数は151人で、うち3分の2が島外からの留学生となっており、廃校の危機を完全に脱しています。

福祉施設には若い留学生が数多く在籍し、中には有資格者もおり、即戦力として大活躍していました。

この視察で学んだ事を各委員が一般質問や委員会等で積極的に提案し、令和8年度予算に計上されております事は大変嬉しく思います。

これを励みとし、今後も町民の為に思いつく限りのあらゆる提案をしていきたいと決意を新たにしております。

(森岡委員長)

完成！新ちかまる寮（男子寮） 内見レポート

～ふるさと留学は次のステージへ～



最新のトイレ



収納も十分にあります



洗濯・乾燥機が各2台



この浴室とは別にシャワー室も



各個室には
ベッドと机が備えられます



食堂、共有スペース

**充実の環境で留学生たちの
新たな島暮らしがスタート！**

本町のふるさと留学制度をさらに推し進めるため、旧「セミナーハウス」を改修して整備が進められていた2棟目の学生寮が無事完成しました！4月からの利用開始を前に、3月27日には新設された寮の内見を行いました。これにより、一棟目の寮は「女子専用（定員12名）」となり、今回完成した新棟は「男子専用（定員6名）」として運用されます。

留学生たちが小値賀で快適に、そして安心して生活できるよう新しく生まれ変わった男子寮の内部を、写真でご紹介します。

親元を離れ、この小値賀島で新たな学校生活をスタートさせる留学生の皆さん。新しい寮での生活が、豊かな出会いと学びの多い時間となるよう、全力で応援・サポートします。町民の皆さんも、温かい見守りご支援をお願いします！

デジタル化推進特別委員会 委員会報告！



小値賀町議会の今

本委員会では、小値賀町議会のICT化を進めるため、令和6年7月から調査研究を続けています。執行部では少しずつデジタル化が進んでいる一方、議会では「グループウェア機能のあるコミュニケーションアプリを利用する程度にとどまっており、県内7町議会がすでにタブレットを導入している中で、本町は遅れが見られる状況です。

視察先は長与町議会！

令和7年度からタブレットを導入し、ペーパーレス化を実現した長与町議会を視察しました。10年前からデジタル化を検討してきた経緯があり、導入までの流れや運用の工夫、課題について詳しくお話を伺いました。タブレットでは共通のPDF閲覧アプリを使い、資料をリアルタイムで共有できます。操作感はまだ紙のページをめくるように実にスムーズで、紙からの移行は自然で、議員の負担も大きくなさそうだと感じました。また、長与町議会では本会議をYO



動画配信システムの説明を受ける様子

Tubeで生中継しており、3台のカメラを遠隔操作しながらテロップを即時に挿入できます。大型モニターを使った説明も行われており、議会の「見える化」に大きく貢献していました。また、発言内容がモニターに文字表示され、翻訳も可能な機能は、傍聴者への支援としても有効だと感じました。

課題が見えてきた！

タブレットはリースで、1台あたり3年間で約27万7千円、アプリ利用料は年間数十万円かかります。さらに、動画配信システムの「導入費用は1400万円以上」との説明がありました。さらに、議員のICT習熟度の差、公費である通信費の扱い、事務局の作業量増加の懸念（長与町は4名、本町は2名体制）といった課題も見えてきました。

まずはできることから！

財政状況や議員の習熟度を考えると、本町で同規模のデジタル化を一気に進めるのは現実的ではありません。まずは、議場へのデジタル機器持ち込みを可能にする、必要な人の分だけ資料を印刷する、といった小さな一歩から始めることが大切だと考えています。最終的にはペーパーレス化を目指しつつも、町民の皆さんにとって議会がより身近で開かれた存在となるよう、本町の実情に合った形で、無理なくデジタル化を進めていきたいと思えます。（今田委員長）

令和8年度当初予算について

かいり 総合計画と予算に乖離が！ このままで大丈夫か！？

問 町民や移住希望者の心理的影響は考えなかったのか。
答 町民や移住希望者に不安を与えた可能性は否定できないが、掲載記事の中には「厳しい財政状況の中には、収支改善に取り組む」とも記載しており、現状と財政への危機感を認識していただいたと推察する。

問 町民に何を伝え、どう思っ
て欲しかったか。
答 現状と同規模の予算では、人口減少や物価高騰等の影響により、基金が減少し、将来世代に負担を残すおそれがあり、限られた財源を効果の高い施策に重点配分していく必要がある。

行政だけでなく、町民に理解を得た上で、一緒に小値賀町の将来を築いていきたいということを伝え、「町の財政状況を自分ごととして知り、考えていただきたい」という思いと、「厳しい状況の中でも、知恵と工夫で小さな幸せを守っていかう」という前向きな気持ちを共有したいという思いがある。

12月発行のおぢか新聞において、「一般会計の財政見通しと令和8年度予算編成方針について」の記事が掲載された。

22億の基金が令和12年に枯渇するといった大変衝撃的な内容で、この記事を見て町民にどう思っ
て欲しいのか全く分からず、掲載した意図、そして今後町政をどうして行きたいのか町長に説明を求めた。

令和7年度と8年度の違いは何？

問 令和8年度予算は何を重視したのか。また令和7年度との違いは何か。
答 重視した点として、
① 子どもの教育の充実と子育て支援
② 農業・漁業・商工観光業の振興と後継者対策
③ 医師・看護師の確保による医療の充実
④ 移住・定住・交流による人口減少対策
⑤ デジタル社会を目指した環境整備の促進

これらによる第5次小値賀町総合計画における将来像、及び人口目標の実現に重点を置いた予算編成とした。

令和7年度との違いは、
① 一般会計の地方債借入上限を設定し、4億円とした
② 大型事業費の平準化のため、単年度事業を複数年度事業とした
③ 会計年度任用職員の人数を見直した
などがある。

政策判断、収支改善で枯渇することはない！

問 掲載の目的は何か。
答 おぢか新聞掲載の中期財政見通し(令和8年度～12年度)は、令和7年度当初予算を基礎に、町の財政の将来像を「見える化」したものだ。

財政運営の課題を早い段階で町民に伝え、「現実を踏まえつつ、行政だけでなく町民全体で課題を共有しながら、

総合計画と予算に整合性がない！

問 総合計画は1学年15人を目標としている。
達成するには当然子育て支援に関する予算(子供の数で増減する予算)は上がっていかなくてはならないが、これらの予算は年々減少傾向にあり、総合計画の目標が数字という形で予算に表れていない。

令和8年度も(前年度と比較して)減額となっているが、この状況をどのように改善するか。
答 子育て支援の予算は、7年度の予算より少し減額になっている。

既存の事業、新規事業も含めたここ2年間の実績を基に、シーリングが掛けられている中、必要額を精査して予算計上した。

【質問を終えて】

令和8年度予算は、各課の予算要求に一定の制限が掛けられる中、新たな試みも見られ、ある事業を除いては大変よくできたものであったと思います。

しかしながら、総合計画(理想)と予算(現実)との乖離は決して見過ごすことはできません。

私達議員は総合計画を議会で通過させている以上、目標達成に全力を尽くさなければなりません。総合計画を単なるフィクション(作り話)にしてはならないのです。

模擬公聴会 私にも言わせて！

● 総合計画と予算を付き合わせる矛盾が出て来てしまっているのが、この質問でよく分かった。

持続可能な行財政運営を進めていくことが重要」と考えた。

一方で、「令和12年度までに基金が約22億円から枯渇する」という見通しの表現が目された。

あくまで令和7年度当初予算を基礎とした単純試算したもので、基金が5年で枯渇することは想定していない。

今後の政策判断や収支改善の取組により十分に対応可能な見通しだ。



もりおか せいゆう
森岡 正雄議員

※ここから動画が見られます！

歯科医院の存続と郷土史の再編纂さんについて

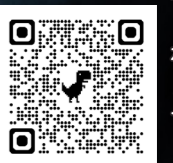
あらゆる手を尽くして 歯科診療所再開を！

島外通院が困難な高齢者などから、歯科休診に伴う行政の支援や歯科衛生士の派遣を求める切実な声が、議会に多数寄せられている。
医療法人小値賀歯科診療所の状況と見通しを伺う。
また、町で医療法人小値賀歯科診療所の施設を存続させ、定期的に歯科医を来院させることはできないか伺う。

歯科診療所の後継者探しの状況は

昨年9月の定例会議において、町内の歯科医療体制の危機について質問した際、町長からは「後継となる歯科医師の確保が最優先課題である」との答弁だった。
現在の医療法人小値賀歯科診療所の置かれている具体的な状況と、今後の再開に向けた見通しを改めて伺いたい。

よこやま こうぞう
横山 弘藏議員



※ここから動画が見られます！

民間に任せきりにするのはなく、町が施設を借り上げる、あるいは買い取るなどして公設民営のような形で存続させることはできないか。

答 歯科運営には歯科医師のみならず、歯科衛生士や助手、事務スタッフの確保が必須となる。

将来的にも人件費や維持管理費などの公費負担が増加し続けることが見込まれるため、現時点での公営運営は現実的ではない。
(町長)

答 医療法人の理事長が「小値賀の歯科診療を諦めてはいない」と強く明言している。

これまで4件の問い合わせがあったが、条件面や離島という環境に対する懸念から合意には至っていない。

また、外部の歯科医院（佐世保市の歯科医院等）との協力についても模索したが、定期的な巡回診療であってもスタッフの同行や機材の維持など、クリアすべき課題は多い。

まずは令和8年6月の期限内に後継者を確保できるように全力を尽くしたい。（担当課）

昭和53年3月に郷土誌が発行されてから半世紀が過ぎようとしている。

郷土史の編さんにはかなりの時間と、それに携わる編集者、有識者など多くの人材が必要となる。

文化、伝統の継承、小値賀町の歴史・文化などを客観的な資料として後世に伝え、地域の特性を再認識することは、地域住民の誇りと愛着、郷土愛をさらに育むことに繋がる。

小値賀郷土史を再編さんする時期が来た

「小値賀町郷土史」が発行されてから長い年月が経過した。この間、小値賀町を取り巻く環境は激変している。

郷土史の編さんは、単なる記録の整理ではない。今こそ新しい郷土史の発行に向けた準備を開始すべきではないか。

昭和60年の小児科診療所の開設や、平成30年の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」としての野崎島の集

落の世界遺産登録、さらには重要な文化的景観への選定など、書き加えるべき歴史的事実は枚挙にいとまがない。

教育委員会のみならず、産業、経済、交通など全庁的な知見を集約する必要があるため、庁内に専用の「郷土史編さん室」を設置し、人員を配置することについても前向きに検討を進めたい。

また、蓄積された膨大な資料の解析や整理にAIを活用するなど、効率的かつ多角的なアプローチが可能ではないかと考えている。
(町長)

答 現代においては執筆者の確保を町内だけで完結させるのは困難であり、外部の専門家や有識者の協力を仰ぐ必要がある。

まずは準備段階として、現存する資料のデジタル化や整理を先行させたい。（教育長）

模擬公聴会

私にも言わせて！

歯の痛みには耐えかねて「獣医に牛の麻酔を頼みたい」と思い詰めるほど歯の痛みは深刻だ。歯科医師の常駐化を強く願う。

【質問を終えて】

口腔医療は、高齢者にとって身近な問題です。歯の健康は、全身に影響を与えるものですから速やかな歯科医師の確保を願っています。

郷土史編さんは、時間を要するものです。まず準備を整えることから始めて欲しいです。郷土史は地域の再発見にもなり、郷土への愛着を育むことに繋がります。

観光振興計画について

小値賀の観光は どこを目指すのか!?

本町が目指す観光の方向を広く町民が共有し、シビックプライドの醸成につなげるビジョンとして、小値賀町観光振興計画および第一期戦略プランが策定された。

今後5年間にわたる町の観光施策の指針となる重要な計画であり、その実効性や町民生活との関係については、いねいな検証と説明が不可欠だ。

定めた数値目標の 妥当性の検証は

重要業績評価指標に掲げている観光客満足度73・4%に対しリピート率45・7%という数字は、同じように観光振興計画を定めている五島市（満足度96%、リピート率12・8%）と比較するとその関係が逆転している。

目標値とするならこの数字の検証が必要ではないか。

答 データそのものの数が少ないこともあって精度に課題はあるものの、立ち位置を把握することを優先した。

今後は関係事業者と連携し、データ収集と分析体制を整えていきたい。

数値目標が空欄のまま なぜパブコメしたのか

問 業績評価指標の多くが未設定のままパブリックコメントを求めていた。数値目標が示されない中でなぜ計画をスタートさせるのか。

答 パブリックコメントは計画の方向性への意見を求める段階であり、数値目標は基礎データの把握後に精査し、最終的には盛り込んでいる。

インバウンド誘客の 効果の検証は

問 なぜ欧米人の富裕層をターゲットにしたインバウンド誘客を進めようとするのか。

答 島の自然をありのままに楽しんでいただくという本町の観光のウリが、欧米人の旅行に対する考え方と合致しているためだ。

問 富裕層以外の観光客はターゲットではないのか。

答 特定層を排除する意図はなく、幅広い層を歓迎する。

問 昨年度に業務委託したインバウンド向け情報発信事業など合計一千万円を超える事業の検証はしたか。

答 報告書は上がっているが検証自体はまだ行っていない。

身の丈にあった観光を

問 観光客増のためのインフラ整備を計画に掲げている。町の規模を考えると大規模整備は現実的でなく、現状を活かした「身の丈に合った」観光を進めるべきでは。

答 ホテル建設などの大規模整備は想定していない。

キャッシュレス対応や移動の不安解消など、生活利便性と観光利便性を両立する小規模改善を進めていきたい。

「五島列島の小値賀町」!!

問 「五島列島」には全国的にかなり高いブランド力がある。五島市、新上五島町と五島列島全体での広域連携をもっと強めたうえで、「五島列島の小値賀町」というアピールが必要ではないか。

「暮らすように旅をする」 のままでも良いのでは

問 観光コンセプトを「暮らすように旅をする」から「ほどけて、とけこみ、みちてゆく。人生の風待ちの港 小値賀」に変える理由は。

答 このコンセプトは、観光まちづくり協議会や町民ワークショップで考えられたもの。暮らしや文化をそのまま観光資源として観光客を呼び込み、広げていくという考え方だ。

問 詩的だが抽象的すぎないか。「暮らすように旅をする」のままでも良いのでは。

答 このキャッチコピーは全国で一般化してしまい、独自性が薄くなってきた。

小値賀町の価値を海外に伝えることができる観光コンセプトだと考えている。

【 質問を終えて 】

本町の観光コンセプトが「ほどけて、とけこみ、みちてゆく。人生の風待ちの港 小値賀」に替わります。

「暮らすように」というキャッチコピーが全国的に増えたため、本町の独自性を出そうという理由からです。覚えるのに時間がかかるのは自分の歳のせいでしょうか。対案コピーを考えました。自己満足です。

「島の時間に身をゆだねる 小値賀しま旅」

「暮らしの風景に出会う島」「静かに満ちていく時間がある島」



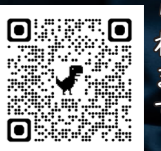
いまだ みつひろ
今田光弘議員

職員の挑戦と失敗を価値に変える人事戦略について

「日本で最も挑戦できる島」を目指せ！！

たていし こうすけ
立石 光助議員

※ここから動画が見られます！



第5次小値賀町総合計画では、挑戦しやすい組織風土の形成を掲げている。

本町が総合計画の目標を達成し自治体として持続していくためには、職員がリスクを恐れずに本町のために挑戦し、たとえ失敗してもその挑戦の過程と意欲が正当に評価されることによって、職員の圧倒的な当事者意識を引き出すことが重要と考える。

新しい挑戦は
正当に評価されているか

現在在の人事評価制度において、前例のない挑戦はどのように反映されているか。

令和7年度より、個人目標の一つを「チャレンジ目標」として設定している。失敗しても減点はせず、挑戦の過程や学びを評価対象とすることで、積極的な目標設定ができる仕組みを整えた。

失敗を表彰し
共有する仕組みを

失敗は成長の機会だ。「失敗を表彰する制度」や、失敗事例を全庁で分析・共有して次の糧にする仕組みが必要ではないか。

失敗の表彰は、無責任な風潮を招く懸念があるため導入は考えていない。
まずは、上司が失敗を責めずに次へ活かす「マネジメント

ト力」を向上させる。
また、事業完了後の振り返りで「うまくいかなかった点」をメモに残し、共有フォルダで閲覧できるように工夫を検討したい。

若手への権限譲渡と

外部人材の活用を

若手職員が予算や権限を持ってプロジェクトを回せる「庁内ベンチャー制度」や、外部の変革人材を登用する考えはあるか。

独立した制度運用は人員体制的に困難だが、既存予算に特別枠を設けるなど、スモールステップでの権限譲渡を検討する。

外部人材については、他自治体への派遣や任期付職員の活用など、効果的な人事戦略を構築していきたい。

圧倒的な当事者意識が
何よりも重要

組織を前進させ改革を生む原動力は、職員の圧倒的な当事者意識と考える。

最新の研究によれば、この意識を高めるには「適切な評価」「権限移譲」に加え、町の高情報共有が特に重要とされている。これらを踏まえ、現状の認識を伺う。

議員が示した当事者意識を構成する要因は、本町の職員にもしっかりと備わっていると感じる。
組織がうまく回っていないとすれば、それは私のマネジメントや環境づくりに課題があるからだと感じた。
いただいた提言から打つ手が見え、組織として前進できているのではないかとワクワクしている。

一方で、当事者意識の高い優秀な職員が、組織内で努力しない人に引張られて意欲を失い、離職してしまうリスクにも注意が必要だ。

これを防ぐためには、「同じ船に乗る連帯感」と「個人の貢献に対する明確な評価」が不可欠と言われているが、現在策定中の新たな人事戦略にはどう反映されるのか。

策定中の「人材育成・確保基本方針」では、職員のチャレンジ意欲を失わせない仕組みを重視している。
具体的には、職員本人のキャリアビジョンや得意分野を尊重した配属を行い、管理職がその活躍をしっかりと支援し、正当に評価して成果を引き出せる体制づくりを盛り込む予定だ。

今後は、誰もが自分の意見をしっかりと発言できるように組織づくり、会議のあり方を進める必要があると考えている。

「話しやすい雰囲気」を作ることが全ての第一歩だ。
小さな工夫の積み重ねからはじめ、誰もが意見を言える、風通しの良い組織風土づくりを着実に進めていit

【 質問を終えて 】

どれほど立派な総合計画を策定しても、実行を担う職員が「やらされ感」では単なる絵に描いた餅に過ぎません。

今、本町に求められているのは、前例踏襲の枠を飛び越え、自らの意志で課題に立ち向かう圧倒的な当事者意識ではないでしょうか。もちろん職員だけでなく、島民も同じです。

課題先進島の超小規模自治体だからこそ、課題の本質に丁寧に向き合い、挑戦と失敗を繰り返しながら、泥臭く解決へと導いていけば、きっと最先端の島になれると信じています。

議会モニター 意見交換会 開催!

～町民の切実な声が議会に届けられました～



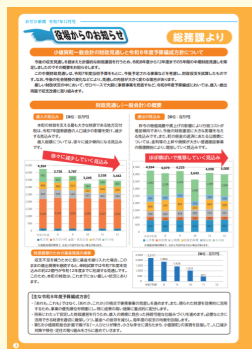
※写真は意見交換会の様子です

議会モニターとは?

議会モニターとは、満16歳以上の町民10名以内で構成され、議会に対して様々な意見や助言を提言します。(任期は2年です。)

主な活動内容

- 本会議や委員会の傍聴、意見の提出
- 議会の広報(議会だより・HP・SNS等)への意見提出
- 議員との意見交換(年一回以上)
- アンケート調査への回答



財政見通しが示された広報誌



今回いただいた貴重な声をもとに、定例3月会議では審議・提言を行いました。また今後も、各常任委員会の活動を通じ、町側への提言としてしっかりと届けてまいります。

新企画第3弾

島の宝

小値賀町に関する「ひと・もの・こと」を議会の目線で紹介する新企画。

今回は「社会福祉法人 値賀の里」職員のとウさん & モウさん です!

国境を越えて繋がる 介護の魅力



- ◎ 小値賀で働くこと決めた理由は。(トウさん) 綺麗な海が大好きだから。(モウさん) 生活費を抑え、貯金しやすい環境だから。
- ◎ 介護の仕事で大切に思うことは。(トウさん) 一人ひとりを理解し尊敬して接すること。(モウさん) 一人ひとりの気持ちを考え、安心して生活をしていただくよう、思いやりの心が大切。



小値賀の福祉には欠かせない存在だ

- ◎ 小値賀で暮らす中で一番嬉しかったことは。(トウさん) 料理が美味しいこと。野菜をもらうこと。いつも周りの方が助けてくれること。(モウさん) 夏祭りが最高に楽しかった。
- ◎ 職場(養寿園)のおすすめポイントは。(トウさん) 清潔な環境に、明るく元気なスタッフ。仕事で困っても、みんなが助けてくれる。寮は設備が整いとても便利。(モウさん) 優しく親切な職員の方々、そして、大自然の美しい海を眺められるベランダ。
- ◎ 小値賀の良いところは。(トウさん) 小値賀の方々は、皆とても親切で親しみやすく、穏やかな生活が送れる。(モウさん) 港が素敵で、赤浜海水浴場

多くのご意見が届けられました

◎ 町の広報誌で示された「令和12年度に基金枯渇」という試算は、対策が示されないまままだと町民や移住希望者に強い不安を与える。もっと丁寧に改善策とセツトで説明してほしい。

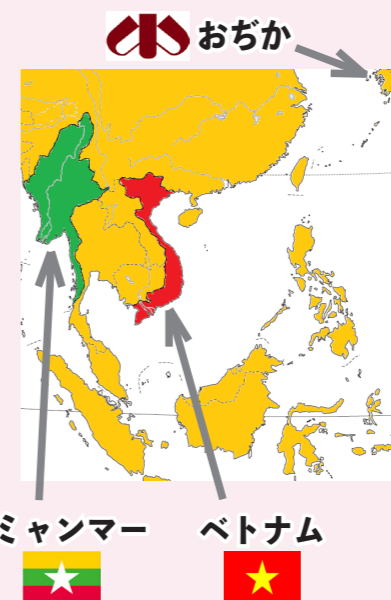
◎ 大島航路は75歳以上の高齢者は運賃無料だが、手荷物には料金がかかっている。荷物も無料にできないか。

◎ 島外から親の介護に通う家族向けの「準島民カード」について、要件を満たさず更新できなくなるケースがある。発行基準をもっと分かりやすく周知してほしい。

◎ 島内の介護人材不足が深刻になってきている。現場の実態をしっかりと把握し、早急に対策を進めてほしい。

◎ 多額の税金を投じる事業(旧小西家住宅の保存など)は、その価値や活用方法を町民へもっと周知すべき。

◎ 総合体育館の雨漏りや、使用禁止になっているトレーニングマシンの更新など、生活に直結する身近な施設の維持管理(修繕)を優先してほしい。



◎ 最後に、町外より働きに来る方にアピールをお願いします。(トウさん) 都会のような活気はありませんが、小値賀の方々は親しみやすく、他にはない経験ができます。一度来てください。きっと私のように、小値賀の生活が好きになります。(モウさん) 海と自然に癒されながら幸せを実感し、ゆったりとした時間を過ごせます。

◎ あとがき 世界中で様々な紛争や問題が発生するなか、人々の穏やかな生活と自然の美しさ、当たり前のものであったとしても幸せなことだと、想い起こされました。本町の介護の職場は、国境を越え、人の手の温もりを繋ぎ伝えることができている。本町の誇れる魅力の一つだと確信する取材になりました。お忙しい中ご対応頂き、ありがとうございました。(取材・江川委員)

「みんなの意見箱」

設置しています！

この意見箱は小値賀町議会が設置したもので、みなさんの町政に関するご意見を広く頂戴し、それをもとに政策を立案、執行機関への提案を行うことで、住民の福祉を増進させることを目的としています。

④ 町が所管していないことに関するもの、公共の福祉に反するもの、議員及び小値賀町職員に対する苦情は、意見としては取り扱わず、議会事務局で保管します。

⑤ 定期的に議会事務局職員が回収し、ご意見の内容は議員全員で確認します。

⑥ 頂戴したご意見は、各常任委員会でご協議しております。無記名の場合、協議結果をご回答致しかねますのでご了承下さい。

令和元年度から
現在までにいただいた
ご意見を集計して
みました！

設置場所は
3ヶ所！

メールでも
受け付けて
おります！



記入用紙は
何でもOK！



「ギカイの窓」

18
件

役場
入口

「みんなの
意見箱」

35
件

ターミナル
入口

図書館
入口



E-MAIL



YouTube



Facebook

小値賀町議会公式
SNS も併せてご覧
ください。

「ギカイの窓」

開いています！

ご意見等はこちら→



編集後記

小値賀の美しい春の風が吹く中、今号をお届けします。ふと立ち止まって、10年後、20年後のこの島の景色を想像してみてください。今ある当たり前前の日常、お気に入りの風景、そして大切な仲間たち。それらを守り、より良く変えていけるのは、他ならぬ「今」を生きる私たちの選択です。議会や政治と聞くと、どこか自分とは無縁の、遠い世界の話に感じるかもしれません。しかし、一歩踏み込んでみれば、そこは自分たちの暮らしや遊び場を自由にデザインしていく、とても創造的な場所です。来年の春には、町の未来の形を決める大切な選挙が控えています。

「もっとこうなればいいのに」という小さな違和感や、若い世代ならではの感性こそが、この島をアップデートする一番の原動力になります。誰かが決める未来を待つのではなく、自分たちが主役となり新しい小値賀の未来を描きませんか。(橋本武士委員)

議会モニターからのご意見により穴あけ用の中心線を追加しました。↓
本誌では、UDデジタル教科書体を採用し、読みやすさに配慮しています。